



# 農林水産・食品分野に おける**標準化**

一般社団法人日本農林規格協会 専務理事 島崎真人氏

農林水産省 基準認証室 課長補佐 栗原秀夫氏

FAMIC 規格調査課長 渡部英悦

独立行政法人農林水産消費安全技術センター

Food and Agricultural Materials Inspection Center (コミュニケーションネーム : FAMIC)

- 1. 農林水産・食品分野における標準化の意義**
- 2. 平成29年JAS法改正**
- 3. 新たに制定されたJAS**
- 4. 令和4年JAS法改正**
- 5. JASの活用**
- 6. JASの提案から制定までの流れ**

- ① 品質・互換性・安全性の確保
- ② 生産・経営の改善・効率化

(例) 林産物JAS、ISO9001

強度やホルムアルデヒド放散量といった品質・仕様を標準化することで、一定水準以下のものを淘汰。



管理手法やその管理の監査手法を事業者が独自に開発する手間の省力化が可能に。一定水準の管理手法を活用することで管理レベルも向上。

- ④ 取引の円滑化、伝達手段の確保
- ⑤ 用語、記号の統一

(例) 食料品にかかるJAS、錦鯉品種



〈サプライヤー〉  
品質管理基準

自身の製品・取組の説明・  
証明の後ろ盾



〈バイヤー〉  
調達基準

確かなものであることの判  
断材料

サプライヤーにおいては品質管理の基準として、バイヤーにおいては調達基準として活用されることにより商取引を効率化・円滑化。

- ③ 適正な評価環境の整備

(例) 機能性成分の試験方法JAS



国産りんご  
含有量 110



外国産りんご  
含有量 60

統一した試験方法により、客観的データによる優劣の比較が可能に。さらに、日本産品の優位性が発揮できる試験方法を国際標準にすることで、日本産品が高く評価される環境を整備。

- ⑥ 市場拡大・新たなニーズの創出
- ⑦ 消費者・消費社会・貿易の利益保護

(例) 人工光植物工場JAS、ノングルテン米粉JAS、ノウフクJAS



新規技術やエシカル消費等、新たな価値基準の目安を標準化することで、新規参入が容易になり、市場の拡大や新たな需要の創出に寄与。

事業者の「強み」をアピールできるよう、  
新たなJASが誕生しています！

## 新 JAS 登場!!

JAS = 日本農林規格 (Japanese Agricultural Standards)

**海外産品との差別化に**

2022年誕生  
**みそJAS**  
(生産方法)



2022年誕生  
**魚類の鮮度試験方法**  
(モノの評価方法)



2022年誕生  
**錦鯉**  
(肉類)



**多様な食を楽しむ目印に**

2019年誕生  
**ノウフクJAS**  
(生産方法)



2022年誕生  
**大豆ミート食品類JAS**  
(生産方法)



2022年誕生  
**ベジタリアン・ヴィーガンJAS**  
(事業者の取組方法)



  
JASマーク

  
有機JASマーク

  
特色JASマーク


  
試験別JASマーク

JASを知ろう、食べよう、使おう！  
11月はJAS普及推進月間



**MAFF**  
Ministry of Agriculture,  
Forestry and Fisheries  
農林水産省

ぼくたちを  
さがして  
みてね



環境にやさしい  
**有機 JAS**



品質の信頼の  
**丸 JAS**



ちょっと他とは違う  
**特色 JAS**

**MAFF**  
Ministry of Agriculture,  
Forestry and Fisheries  
農林水産省

JASを知ろう、食べよう！  
**11月はJAS普及推進月間**

JASを知ろう



# 11月はJAS普及推進月間です！

MAFF 農林水産省 maff  
3日

“JASマーク”  
を知っていますか？

JAS（日本農林規格）は、農林水産分野における日本の国家規格です。高い品質・信頼性のあるJASマークは、公正な第三者によって、JASに定められた基準を満たすことを認証された食品や林産物に付くマークです。つまり、JASマークは、品質などの基準を満たすことの証であり、消費者の安心の鍵となります。

農林水産省新事業・食品産業部  
11月6日 18:00

【11月はJAS月間】 JASマークは品質の目印です！  
しょうゆ、ジュース、カップ麺など、  
この丸いJASマーク、皆さんもきっとどこかで目にしているはず！... さらに表示



設定

← ポストする

MAFF 農林水産省 @MAFF\_JAPAN

11月はJAS普及推進月間！

特色JASマークは、付加価値のある製品などに表示される、他の商品との差別化を行うことができるマークです。

下の画像には、本物ではない『特色JASマーク』が3つあります。探してみてください！

リンク先の新着情報で答えをチェック☆  
[maff.go.jp/jas/index.htm](http://maff.go.jp/jas/index.htm)

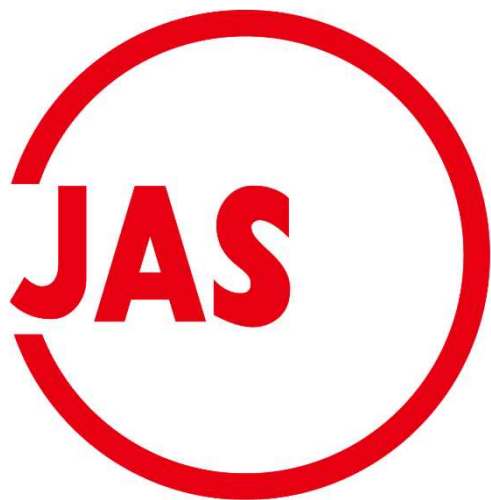
他の「特色JASマーク」と違うものが3つあります  
見つけられるかな？

・JAS＝日本農林規格（Japanese Agricultural Standards）  
・特色JAS＝日本の伝統的な方法で生産された製品や付加価値のある製品などに表示されています

MAFF 農林水産省  
JASを知ろう。食べよう。使おう！  
11月はJAS普及推進月間

# 平成29年JAS法改正（JASのあゆみ）





JASマーク



特色JASマーク

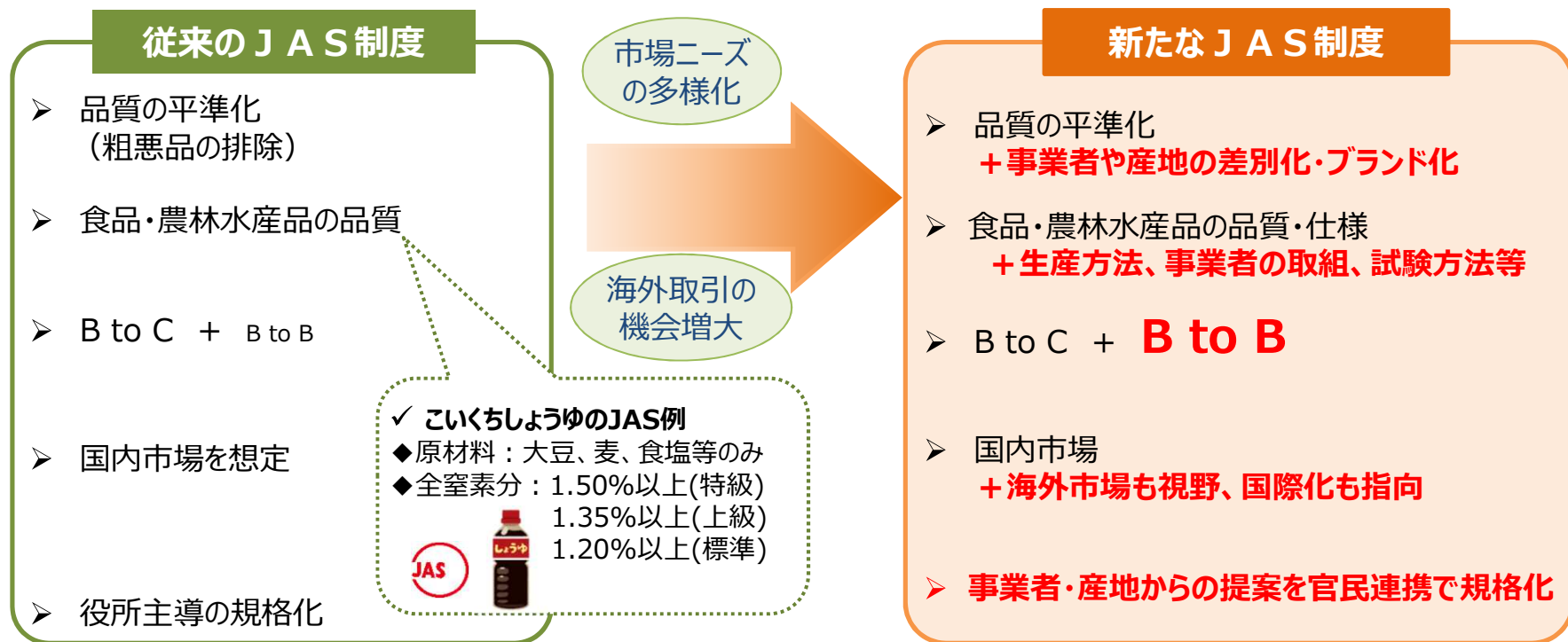


有機JASマーク



試験方法JASマーク

- これまでのJASは、市場に出回る食品・農林水産品の品質を一定の範囲に揃える「平準化」を目的とする制度。ビジネスでは、製品の品質を「見える化」し、サプライヤーの説明・証明の後ろ盾、バイヤーの判断材料に。
- 他方、食品・農林水産品をめぐるのは、近時、新たな課題。
  - ① 品質が総じて向上する中、市場のニーズは品質以外の価値・特色にまで多様化
  - ② 海外展開が課題となる中、食文化や商慣行が異なる海外の取引相手に馴染みのない日本製品の品質や特色、事業者の技術や取組などを説明・証明していく機会が増大。
- これからのJASは、食品・農林水産分野の競争力の強化に向け、事業者や産地の創意工夫を活かして多様な価値・特色を戦略的に「見える化」し「差別化」にも活用し易い枠組みに。これを足掛かりとする国際化も推進。



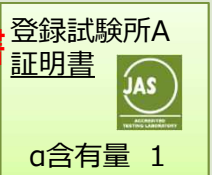




# 平成29年JAS法改正（JAS制度で定められる規格の種類）



- JASは、①製品の品質・仕様だけでなく、②製品の生産・流通プロセス、③事業者による製品の取扱方法、④事業者の経営管理の方法、⑤製品の試験方法、⑥これらに関する用語など、多様な規格を制定可能。
- 規格に適合していれば、製品、広告等、試験証明書にJASマークの表示が可能。

対象		内容（例）	JASマーク
産品 (モノ)	① 品質・仕様	特定の原材料、成分等の農林水産品・食品の規格	<b>産品に表示</b> 
	② 生産プロセス 流通プロセス	特定の栽培法・製法で生産された農林水産品・食品の規格 など	
事業者	③ 取扱方法	特定の栽培管理や飼養管理、品質・衛生管理、保管・輸送管理、販売管理、料理の調理や提供方法の規格、官能評価員や技量・力量に関する規格 など	<b>広告等に表示</b> 
	④ 経営管理 方法	事業者による労務管理、社会貢献に関する規格など	
⑤試験方法		成分の測定方法・DNA分析方法の規格 など	<b>試験証明書 に表示</b> 
⑥用語		①～⑤に関する用語の定義	—

## 商品にJASマーク

### ①モノの品質の規格

- ✓ 接着重ね材(2019年)
- ✓ 接着合せ材(2019年)
- ✓ 接着たて継ぎ材(2021年)
- ✓ 精米(2021年)
- ✓ 木質ペレット燃料(2023年)



- 品質・互換性の確保
- 取引の円滑化、合理的な選択



### ②モノの生産プロセス等の規格

- ✓ 日持ち生産管理切り花(2018年)
- ✓ 人工種苗技術水産産品(2018年)
- ✓ 障害者生産食品(2019年)
- ✓ 持続可能鶏卵・鶏肉(2020年)
- ✓ 有機藻類(2021年)
- ✓ 大豆ミート食品類(2022年)
- ✓ プロバイオニクス農産物(2022年)
- ✓ みそ(2022年)
- ✓ 低たん白加工処理玄米(2022年)
- ✓ ベジタリアン/ヴィーガン食品(2022年)
- ✓ フードチェーン農産物(2023年)



- 持続可能な生産をアピール
- 新市場の開拓・新たなニーズの創出に寄与



## 広告等にJASマーク

### ③事業者による取扱方法の規格

#### ④経営管理方法の規格

- ✓ 有機レストランの管理(2018年)
- ✓ 青果市場の低温管理(2019年)
- ✓ 植物工場の栽培管理(2019年)
- ✓ ノングルテン米粉の製造管理(2020年)
- ✓ ベジタリアン/ヴィーガン飲食店(2022年)
- ✓ 廃食用油リサイクル管理(2023年)



- 適切な管理をアピール
- 生産・経営の改善効率化
- 環境に配慮した取り組みを行っていることをアピール



## 試験証明書にJASマーク

### ⑤モノに関する試験方法の規格

#### 機能性成分等の定量試験方法

- ✓ ベにふうき茶:メチル化カテキン(2018年)
- ✓ みかん:β-クリプトキサンチン(2018年)
- ✓ ほうれんそう:ルテイン(2019年)
- ✓ 生鮮トマト:リコペン(2019年)
- ✓ きのこと(ぶなしめじ):オルニチン(2021年)

- 日本の産品や技術の優位性を根拠を示してアピール



- ✓ 魚類鮮度(K値)(2022年)
- ✓ リンゴジュース:プロシアニジン(2022年)

### ⑥用語に関する規格

- ✓ 錦鯉 - 用語(2022年)



一般的な品種について定義を明文化

- 正当な評価、適正な取引に寄与

# 新たに制定されたJAS（持続可能性に配慮した鶏卵・鶏肉JAS）

- 我が国の鶏卵・鶏肉の生産は、素びなの生産や飼料原料の入手において、極めて海外依存度が高く、海外における伝染病の発生や干ばつなどの不測の事態が生じた場合、国内の養鶏産業の事業継続を困難なものとする懸念がある。
- 国産鶏種・国産飼料用米の利用や鶏ふんの利活用等の基準を規格化することにより、次の効果が期待され、持続可能性に寄与。
  - ① 国産資源の利活用により、海外依存に起因するリスクの低減が期待されるとともに、飼料用米の利用拡大により、未利用水田の利活用の推進や食料自給力の向上を後押し。
  - ② 人や社会・環境に配慮した消費行動（エシカル消費）を望む国内外の購買層に広くアピールすることが可能となるとともに、国内養鶏産業の競争力強化に貢献。

## 規格等の内容

- 国産鶏種・国産飼料用米の利用
- 鶏ふんの利活用
- アニマルウェルフェア・周辺環境への配慮
- 従事者への適切な労働環境の提供 など



# 新たに制定されたJAS（障害者が生産行程に携わった食品JAS）FAMIC

- 農業分野での障害者就労の支援、農業の担い手不足や障害者の就労先不足など農業・福祉における諸課題の解消につながる「農福連携（ノウフク）」の取組が推進される一方で、ノウフクの取組が広く認知されていない状況。
- 障害者が携わって生産した農林水産物及びこれらを原材料とした加工食品の生産方法及び表示の基準を規格化することにより、次の効果が期待。
  - ① 障害者が携わった食品の信頼性が高まり、人や社会・環境に配慮した消費行動（エシカル消費）を望む購買層に訴求することが可能に。
  - ② 「農福連携（ノウフク）」の普及を後押しすることで、農業・福祉双方の諸課題解決ツールに。

## 規格等の内容

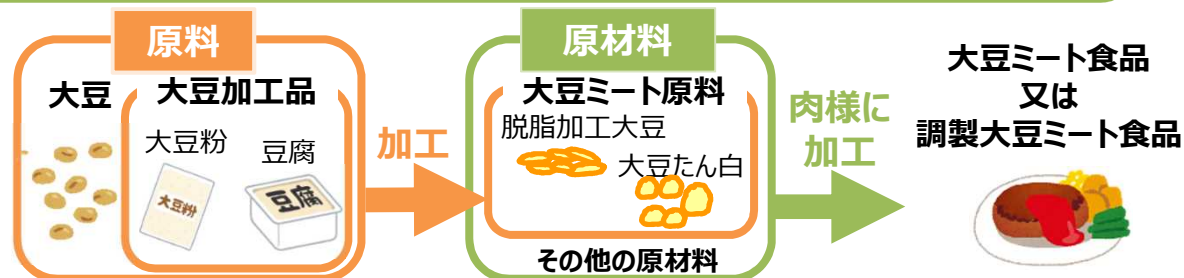
- 障害者が作業しやすい環境
- 農林水産物の主要な生産行程に障害者が携わっている
- 障害者が携わった生産行程の情報提供
- 加工食品において使用する原材料やその管理
- 包装・容器等への表示の方法及び内容



- 世界的に多様化する消費者ニーズに対応し、良質なたん白質を含む大豆たん白が着目されてきている状況。
- 既に市販されている「大豆ミート製品」では、牛肉ほかの食肉も含む製品が混在。
- 大豆たん白、脱脂加工大豆等を肉様に加工したもの（大豆ミート）を主な原材料に使用した加工食品を大豆ミート食品類として規格化することにより、次の効果が期待。
  - ① 消費者が大豆ミート食品の内容物を正しく理解して、商品を選択することが可能になる。
  - ② 食肉を含む「大豆ミート」を植物由来のみと誤解した商品購入を回避することが可能になる。

## 規格等の内容

- ①「大豆ミート食品」（動物性原材料を使用していない製品）と
- ②「調製大豆ミート食品」（卵、乳、動物性由来の調味料の使用を認める製品）  
の2つのカテゴリを規定。
- 原料のアミノ酸スコア、製品の大  
豆たん白質含有率などの基準を  
規定。



規格の基準	大豆ミート食品	調製大豆ミート食品
アミノ酸スコア	大豆ミート原料のアミノ酸スコアが100であること	—
大豆ミート原料以外の原料	動物性原材料及びその加工品を原材料として用いないこと	動物性原材料（食用鳥卵及び乳を除く。）及びその加工品（調味料を除く。）を原材料として用いないこと
大豆たん白質含有率	10%以上	1%以上

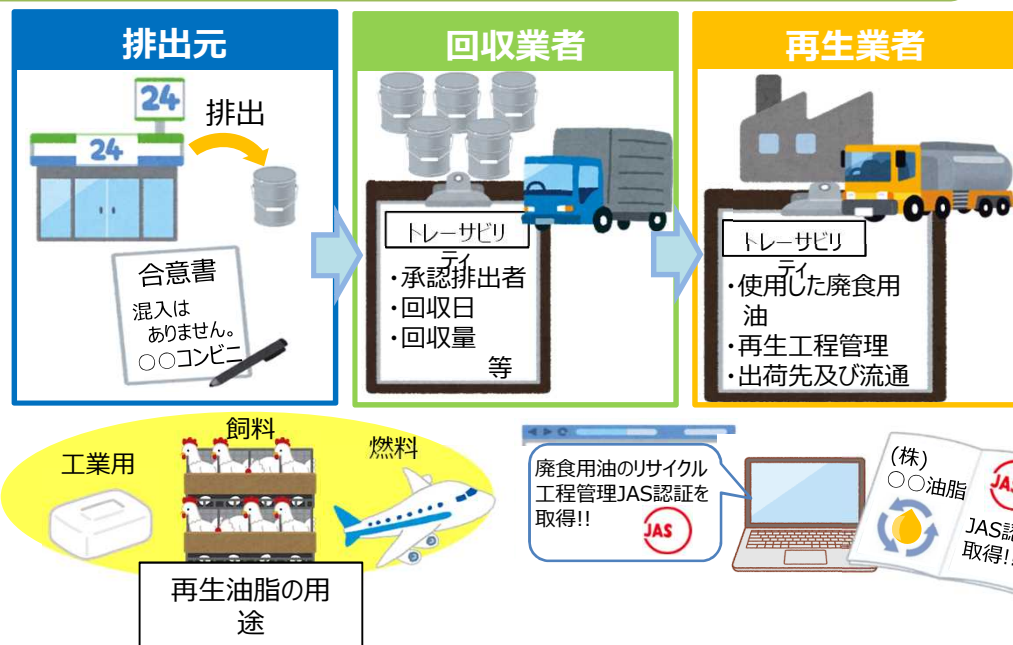
- ▶ 廃食用油をリサイクルした油脂（再生油脂）の需要が国内外で高まる中、廃食用油をリサイクルする製造プロセスや品質などについて、業界の自主的なガイドラインで示してきたものの、各事業者独自のノウハウに依存している実態から、必要な工程を経ない粗悪品も流通。
- ▶ 廃食用油を原材料として再生油脂を製造する事業者（回収業者及び再生業者）のリサイクル工程管理を規格化することにより、次の効果が期待。
  - ① BtoB取引において、JAS認証によって良質な再生油脂を提供できる事業者であることを、ユーザー側が容易に評価することが可能。
  - ② 廃食用油の価格が高騰する中、再生油脂の需要拡大を見据え、良質な再生油脂を安定的に供給することによって、環境問題対応や持続可能な社会に貢献。

## 規格の内容

廃食用油の回収業者及び再生業者について、それぞれ下記の基準を規定。

- ▶ 汚染、流出及び混入を防止できる容器や運搬車両などの施設等要求事項
- ▶ 廃食用油のトレーサビリティの確保、必要な工程管理及び定期的な検証・改善などの管理要求事項

など



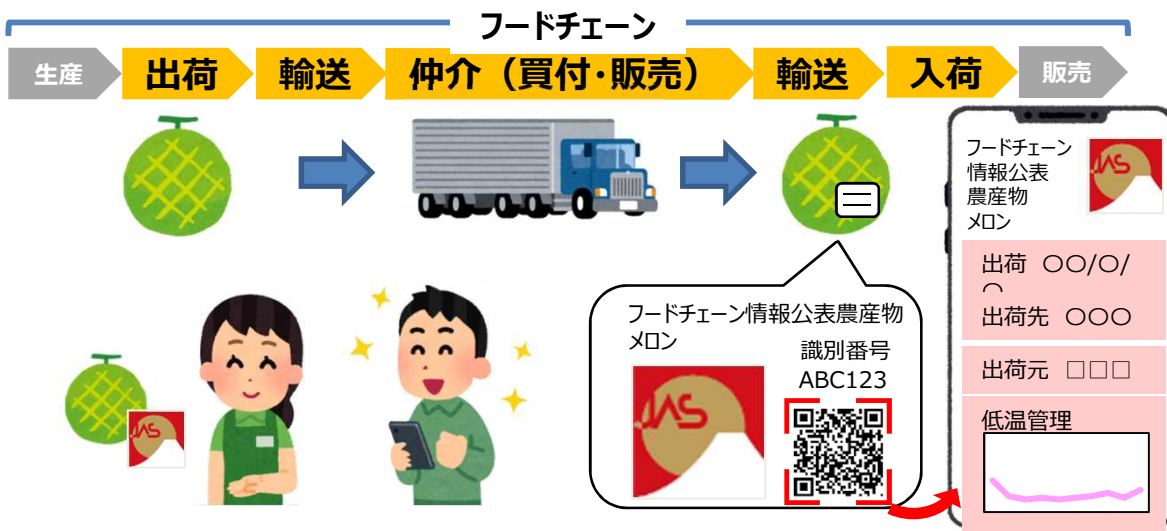
- 農産物の情報を知りたい消費者ニーズと、流通行程における適切な管理が見える化して付加価値向上につなげたい事業者ニーズが存在する。また、海外市場では、日本産であることの疑わしい農産物が出回っている事例も確認されている状況。
- 農産物の出荷時の品質を維持するために、品目ごとに流通行程管理基準を規定し、流通行程管理基準の適用状況を含む「フードチェーン情報」の記録、保存及び公表するための要求事項を規格化することにより、次の効果が期待。
  - ① 農産物の生産から販売までの一貫したデータ情報連携基盤「スマートフードチェーンプラットフォーム」の社会実装の推進として本JASが活用されることにより、当該農産物の「フードチェーン情報」が公表・見える化され、消費者ニーズと事業者ニーズがマッチング。
  - ② 国内需要のみならず、海外市場における日本産品のブランド形成や輸出の商談に活用。

## 規格等の内容

- 各品目の流通行程管理基準（温度、湿度、衝撃等）に従った管理
- フードチェーン情報の記録、保存及び公表するための要求事項

### フードチェーン情報

流通行程管理基準の適用状況を含む、トレーサビリティによって追跡可能な、農産物の履歴、適用、移動及び所在に係る情報



- 諸外国の多くは、「有機」の名称表示を規制。（その国の有機認証を受けなければ「有機」と表示できない）
- 国際的な有機の基準としてコーデックスガイドライン（※）が存在。各国は、これに準拠した基準・認証の枠組を措置。
- 国家間で「有機同等性」が認められれば、自国の有機認証を相手国の有機認証と同等のものとして取り扱うことが可能。

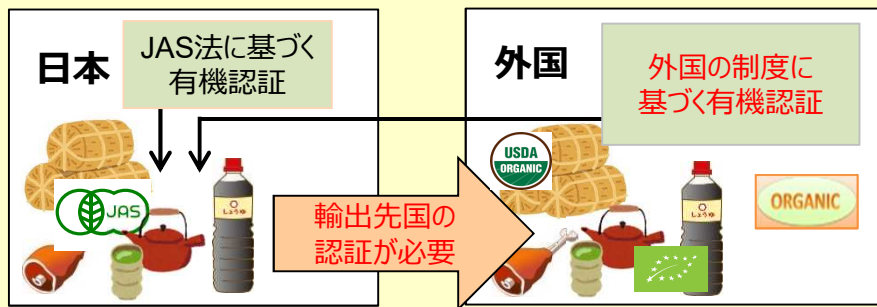
## ※有機的に生産される食品の生産、加工、表示及び販売に係るコーデックスガイドライン（有機JASも準拠）

- 有機農産物：化学合成肥料及び農薬の使用を避けることを基本として栽培
- 検査・認証制度：公的な検査・認証制度の構築が必要
- 名称規制：「有機」の表示は、公的な検査・認証を受けた場合に限り可能

## 有機同等性の仕組み

### 通常

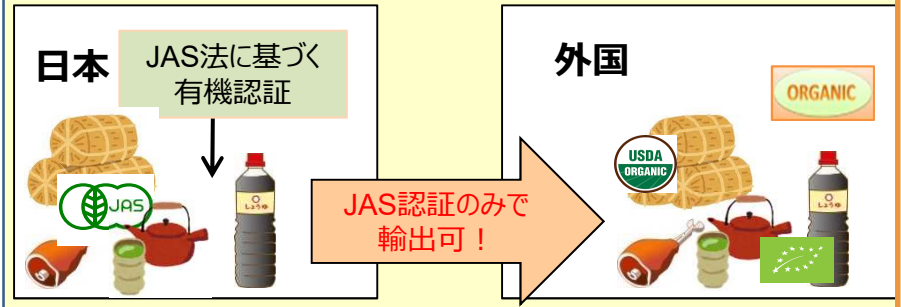
事業者は、輸出先国の有機認証を受けなければ、輸出先国において「有機」と表示して流通不可。



外国の有機認証を受ける場合、認証費用、言語問題等  
事業者の負担が大きい

### 有機同等性が承認されている場合

事業者は、日本の有機認証を受ければ、輸出先国の有機認証を受けなくとも、輸出先国において「有機」と表示して流通可。



外国の有機認証を受ける必要がなくなり、  
事業者の負担減！



2022年10月1日 から **有機酒類** に



有機JASマークの表示が  
できるようになりました！

有機酒類は、これまでJASの対象とされていませんでしたが、JAS法が改正され、2022年10月1日から有機加工食品のJASの認証を取得し、有機JASマークの表示ができるようになりました。

## 有機酒類の表示には有機JASマークが必要な？

2025年10月1日以降、酒類に「有機」、「オーガニック」等と表示するには有機JAS認証を取得し、有機JASマークを付すことが必要になりました。

2022年10月1日から2025年9月30日までは、有機酒類の表示は以下の2通りの方法が認められています。  
輸入品についても同様です。

- ①有機加工食品のJASの認証を取得し、有機JASマークを貼付の上、表示を行う。
- ②国税庁の「酒類における有機の表示基準」※に従い表示を行う。  
(有機JASマークの貼付は行わない。)

※「酒類における有機の表示基準」は2022年10月1日に廃止となりましたが、2025年10月1日までの間、引き続き廃止前の基準を適用できる措置が設けられています。輸入品についても同様です。

## どんな効果があるの？

- ・国内市場においては、有機酒類について、他の有機加工食品と同様に有機JAS認証が必須となり、消費者は有機JASマークに基づく合理的な商品選択をすることが可能になります。
- ・海外市場においては、有機酒類の同等性を海外の主要市場国・地域と相互承認し、有機酒類の輸出拡大を目指します。

プレスリリース

カナダに有機表示をして酒類を輸出できるようになりました！

ツイート

印刷

令和5年8月31日  
農林水産省

～～有機酒類の相互承認はカナダが初～～

2023年8月31日（木曜日）から、有機JAS認証を受けた有機酒類について、有機（organic）表示を付けて、カナダへ輸出できるようになりました。また、輸入についても、カナダの制度による認証を受けた有機酒類を輸入し、JAS制度に基づき「有機」等と表示することができます。



# 令和4年JAS法改正（JASの国際化）

- 食品・農林水産品の輸出力強化が課題となる中、海外との取引を円滑に進めるためには、日本の事業者にとって取り組みやすく有利に働く規格の制定・活用を進めるとともに、その国際的な認知度・影響力を高めていくことが不可欠。
- そのための手法としては、①日本発の規格である**JASと調和のとれた国際規格を制定**する手法、②日本発の規格である**JASそのものを海外において浸透・定着**させる手法があり、それぞれの規格ごとに、規格の目的や対象、影響力、実現可能性等を勘案した上で、戦略的に選択していくことが重要。

国際化



**JASのまま  
海外において  
浸透・定着**

（例）ハム・ソーセージのJAS認証品  
が東南アジアで贈答品に選好



**Codex規格**

- ・コーデックス委員会  
（FAOとWHOによる政府間組織）
- ・参加国間での議論を通じ合意形成
- ・食品安全に関する規格基準の他、食品安全以外の規格（表示、一次産品等）  
（例）納豆（Codex規格提案中）



**ISO規格**



- ・国際標準化機構  
（各国の代表的標準化機関からなる組織）
- ・多数決
- ・食品を含めた多様な製品、性能評価、マネジメントシステムなどの規格  
（例）機能性成分の定量試験方法  
（2022年7月に提案済）

**日本独自の価値・ルールを  
日本ブランドとして海外へ訴求**

- ・日本のモノ・技術の独自性をアピールしたい場合（製品の差別化など）
- ・他国との調整に伴う独自性の希薄化を避けたい場合

**日本独自の価値・ルールを  
世界共通の規格として標準化**

- ・日本のモノ・技術を国際的に広げ一般化したい場合（粗悪品の排除、互換性の確保、市場全体の拡大など）
- ・日本のモノ・技術について国際的に共通の「モノサシ」を作り、自らの優位性を強調したい場合（性能評価方法など）

**JAS**

品質

試験方法

生産方法

国際的に通用するものを積極的に取り込み

国内規格

- 鮮度評価指標であるK値を測定するための試験方法について、妥当性を確認した上で規定。
- 破碎した試料に過塩素酸希釈液を加え、ATP関連物質分解酵素を失活させるとともにATP関連物質を抽出。高速液体クロマトグラフで試料溶液中のATP関連物質を測定、各物質の含有量からK値を算出。

## 【試料調製～測定手順】



試験用試料に氷冷した過塩素酸希釈液を添加

ホモジナイザーでかき混ぜ、ATP関連物質を抽出

pHを調整し、氷冷した後、フィルターでたんぱく質を除去

高速液体クロマトグラフでATP関連物質の含量を測定

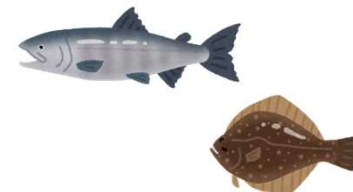
測定したATP関連物質の含有量から試料のK値を算出

## K値とは

- 主に水産物に関する**科学的な鮮度評価指標**。
- 死後時間経過に伴って増加する、魚類筋肉中に含まれるエネルギー成分である**ATP関連物質の含有量を測定して算出**。

市場に流通するほとんどの魚種に適用可能。

さらに、未凍結品及び凍結品のいずれにも適用可能。



ATP関連物質の抽出において、**遠心分離等の処理が不要**な簡便化された方法のため、迅速かつ容易に実施できる。



特殊な装置・器具・試薬を必要としないため、**公設試験所等も対応可**。

一般的な装置  
(高速液体クロマトグラフ)

容易に入手できる  
試薬のみ

## PRIMAHAM (THAILAND) CO.,LTD.(プリマハムタイランド社)



所在地 392 Mu 7, 304 Industrial Park 7,  
Tha Tum, Si Maha Phot,  
Prachin Buri 25140, Thailand

生産開始 2008年3月

資本金 4億2,950万バーツ

従業員数 800名(2015年3月現在)

敷地・建物面積 敷地: 35,758㎡

建屋: 11,000㎡

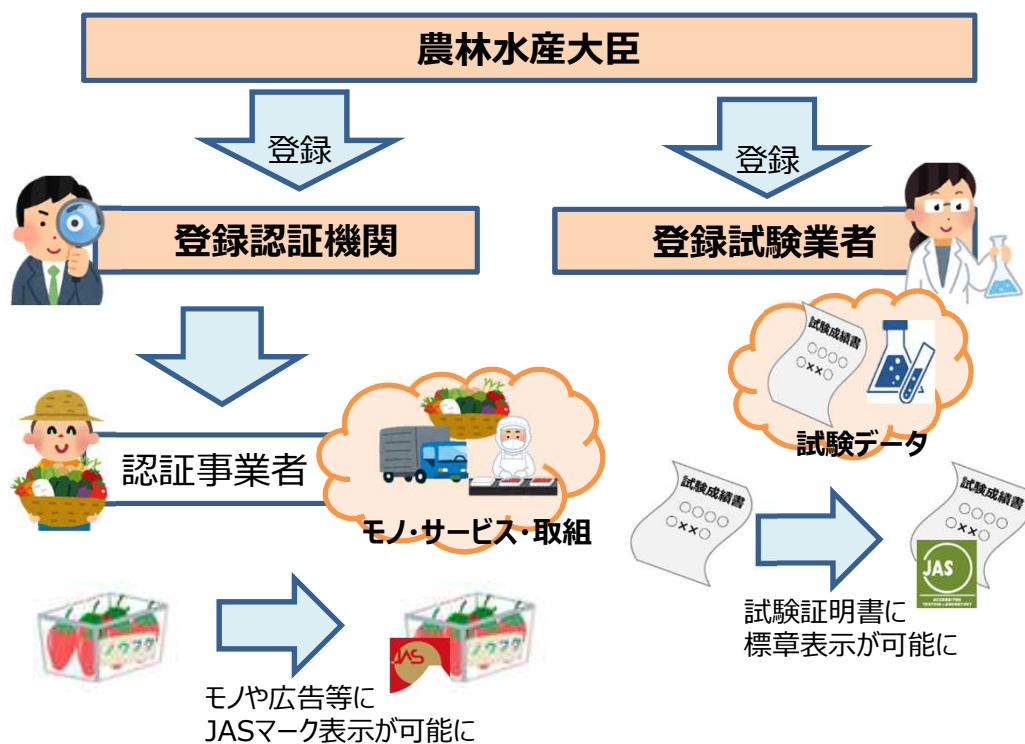
作業場: 7,000㎡



出典：プリマハムタイランド社の工場見学へようこそ  
プリマハムタイランドHP

- JAS制度には、モノ・サービス等の品質や仕様を定めた「規格」がある他、規格に**適合**していることを第三者が確認し、**お墨付き**を与える「**認証**」制度が存在。
- JASの認証制度等の手続には国際的に信頼ある**ISO基準**を採用している。
- 認証を取得した事業者は製品や事業者の広告等にJASマークの表示が可能

## 認証制度のイメージ



## JASマーク・標章

規格に応じて、

- ① 産品
- ② 事業者の広告等
- ③ 試験証明書

等に表示することが可能。



## ① 熟成ハム類、熟成ベーコン類、熟成ソーセージ類



- ✓ 平成7年12月制定
- ✓ 通常のハム類等の生産行程に加えて、一定期間以上の塩せきによる熟成が特徴
- ✓ 贈答品として高需要

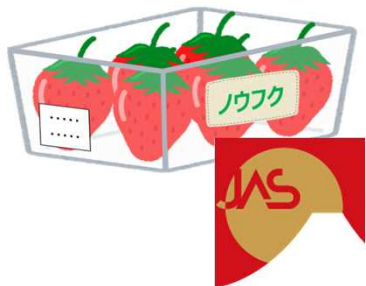
## ② 集成材など



- ✓ 昭和41年9月制定
- ✓ 繊維方向が平行になるように集成接着した木材
- ✓ 接着性能、含水率等の品質基準を規定

※制定年月日を全部改正年月日から初期制定年月日に変更

## ③ 障害者が生産行程に携わった食品



- ✓ 平成31年3月制定
- ✓ ノウフク生産食品、加工食品の生産方法と表示の基準を規定
- ✓ 農福連携の普及を後押しするツールとして期待

## ④ しょうゆ



- ✓ 昭和38年1月制定
- ✓ しょうゆの種類ごとに色度、全窒素分などの品質基準を規定
- ✓ 日本の食文化を代表する調味料であり、古くからあるJASの一つ

JAS制度を普及する協会です

一般社団法人 日本農林規格協会 (JAS協会)

〒103-0026  
東京都中央区日本橋兜町15-12  
八重洲カトウビル4階  
TEL : 03-3249-7120



[トップページ](#)

[お知らせ](#)

[JAS協会のご案内](#)

[JAS制度の概要](#)

[講習会](#)

[出版物・資料](#)

[関連機関リンク](#)

ようこそJAS協会へ



## JAS協会チャンネル

@jas2110 - チャンネル登録者数 50人 - 13本の動画

[このチャンネルの詳細 >](#)

チャンネル登録

[ホーム](#) [動画](#) [再生リスト](#) [コミュニティ](#) [チャンネル](#) 🔍

動画 ▶ [すべて再生](#)

- 

JAS品質 障害者が生産行程に携わった食品  
- 生産行程管理者 - 6:04

JAS活用事例紹介③「株式会社ウイズファーム」
- 

JAS品質 しょうゆ  
- 取扱業者 - 3:26

JAS活用事例紹介①「ヤマモリ株式会社」
- 

JAS品質 農産物缶詰及び農産物瓶詰  
トマト加工品  
- 取扱業者 - 6:39

JAS活用事例紹介④「株式会社ナガノトマト」
- 

JAS品質 有機農産物  
- 生産行程管理者 - 6:03

JAS活用事例紹介⑤「かめまる有機給食協議会」



## FAMIC ファミック （独）農林水産消費安全技術センター

本部 規格調査部 規格調査課

TEL：050-3797-1846

[shohin\\_mailbox@famic.go.jp](mailto:shohin_mailbox@famic.go.jp)

札幌センター 規格検査課

TEL：050-3797-1760

横浜事務所 規格検査課

TEL：050-3797-1880

神戸センター 規格検査課

TEL：050-3797-1909

仙台センター 規格検査課

TEL：050-3797-1890

名古屋センター 規格検査課

TEL：050-3797-1898

福岡センター 規格検査課

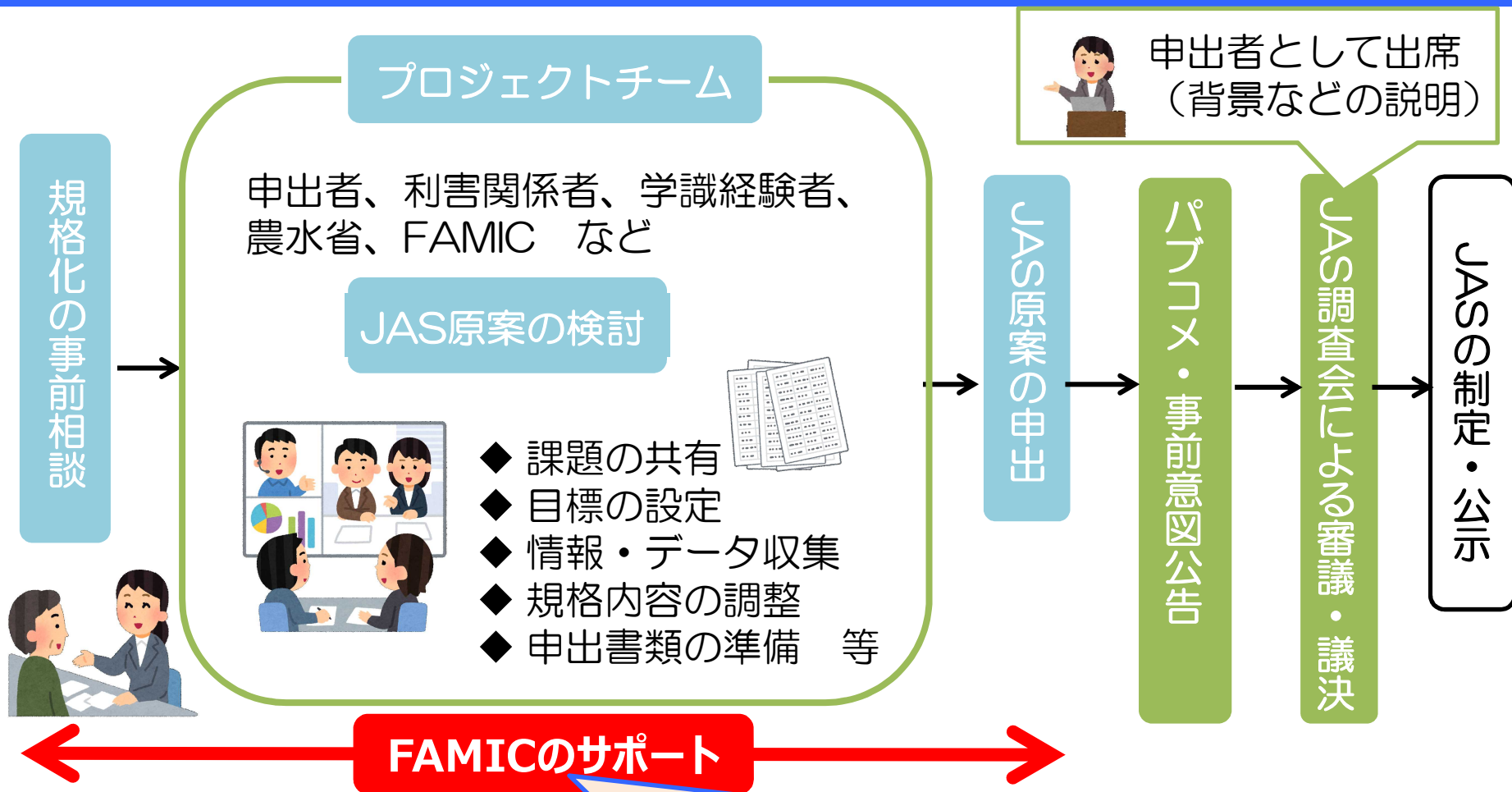
TEL：050-3797-1925

JAS制定等に関する申出相談窓口

<http://www.famic.go.jp/syokuhin/jas/soudan>



# JASの提案から制定までの流れ



- 【例】
- ①「JASの制定・見直しの基準」を満たすJAS原案作成のサポート
  - ②JAS化に向けたプロジェクトチームの立上げのサポート
  - ③関係者間の意見調整のサポート
  - ④JAS原案の提案に係る事務手続きのサポート

## 申出までの所要時間目安

- ✓ 通常1年半～2年半程度
- ✓ 試験方法などはもう少し長くなる場合あり